

Apprire

 秋田大学広報誌〈アプリレ〉

No. **31**
2011



特集

秋大発「資源外交」

A p r i l 2 0 1 1 . 0 3

資源に挑む 秋大の「舞台」は世界へ

資源を持たない日本が、如何に資源を安定獲得するか。レアメタル、資源ナシヨナリズム、都市鉱山といったキーワードがメディアを飾る今日、世界が資源を軸に回っているのは誰の目にも明らかです。各国が資源の「争奪戦」を繰り広げる中、秋田大学の存在感が高まっています。

この取組みの中心となっているのが、平成21年10月に設置した秋田大学国際資源学教育研究センターです。鉱山研究に特化し、資源開発における研究拠点を目指しています。工学資源学部を母体とするセンターですが、センター教員が長期出張もしやすいようにと、全学センターの施設としています。

前身の秋田鉱山専門学校創立から数え、約100年の歴史を誇る秋田大学。地方の大学でありながらいわば「資源外交」の一翼を担う立場として英知を集結し、将来につなげようとしています。

1966年まで英国保護領だったボツワナ共和国。1967年に、ダイヤモンドの鉱脈が発見されて以来、ニッケル、銅、プラチナ等の豊富な鉱物資源が、この国に眠っていることが分かりました。以来、アメリカ、イギリスなどの先進国が、この資源を狙ってボツワナ

ボツワナ共和国

秋田から4つの飛行機を乗り継ぎ、30時間。国土は日本の1.5倍の58万km²、人口僅か200万の国。

アフリカの南部・ボツワナ共和国では今、国を挙げて「ボツワナ国際科学技術大学(BIUST)」の設置プロジェクトが進められています。同国で2校目となる国立大学で、工業系の大学としては初。ここに置かれる鉱山系の学科には、ボツワナ政府から特に大きな期待が寄せられています。

「資源を持たない日本が、なぜこれほどまでに成長を遂げたのか。それは日本が持つ技術の力に他ならない。我々は日本、そして秋田大学から学ぶべきことが沢山ある」昨年、秋田大学を訪ねたオースカー・モツワハエボツワナ大使は、こう話しました。

ボツワナの首都ハボローネから北東へ約270km。キャンパスが設置されるプラハの町では、急ピッチで建設工事が進められ

に詰め寄った結果、国の大半を資源産業が占めるほどになり、ボツワナは資源による未曾有の経済成長を遂げました。

ですが、ボツワナは現在、資源という一次産品頼みから抜け出し、雇用増につながる製造業をなんとか構築したい思いがあります。「そのために、まずは資源産業を自国で発展させる技術を持たなくてはならない」ボツワナ政府が、新たな国立大学を設置することを決意し、そのための支援を要請したのが、日本の秋田大学だったのです。

2009年10月、BIUSTと秋田大学は協定を締結。教員の派遣や、カリキュラム構成、施設整備などの対応も含めた幅広い領域で、秋田大学が全面的に支援していくことになりました。

「資源を持たない日本が、なぜこれほどまでに成長を遂げたのか。それは日本が持つ技術の力に他ならない。我々は日本、そして秋田大学から学ぶべきことが沢山ある」昨年、秋田大学を訪ねたオースカー・モツワハエボツワナ大使は、こう話しました。

BIUSTの指導者として迎えられる予定です。2人はボツワナの将来を担うことになるのです。BIUSTの設置はボツワナだけでなく、南アフリカの発展のために大きな役割を果たすはず。彼らにとって、BIUSTの設置は希望の光と言えるでしょう。

(水田 敏夫)

資源外交」



特集 秋大発「

チリ共和国

南米チリ共和国は、世界一の銅産出量の世界有数の銅山立国です。チリは、南北の長さ4329km東西の幅約172km、西に太平洋と東にアンデス山脈に挟まれた細長い国であり、このアンデス山脈には大規模な銅・金鉱山が数多く操業しています。また近年、チリはレアメタルとして注目されているリチウム生産量も世界の約40%を占めるようになっています。チリは、現代産業に欠かせない資源供給に必要な鉱山の探鉱や開発の最前線の地と言えます。

2010年10月末、水田教授(センター長)、私、学部4年生の3名で、アタカマ鉱山調査研究のため鉱山最前線の地である

カザフスタン共和国

カザフスタン共和国は世界第1位のクロム埋蔵量、第2位のウラン埋蔵量、第

モンゴル共和国

草原に点在するゲルと呼ばれる帽子の形をした移動式住居で季節に合わせて家

チリ第Ⅲ州コピアポを訪れました。アタカマ鉱山は、コピアポから南へ約20km地点に位置し、日本の日鉄鉱業株式会社とチリ側Inverrazグループとの合弁プロジェクトとして1995年探鉱、2003年商業生産を開始した銅を採掘対象とした鉱山です。私たちは鉱山会社と共同で、主に鉱山の坑内調査と試錐(ボーリング)調査等、探鉱に関わる分野の調査研究を行いました。

5位のチタン生産量を誇るほか、西部のカスピ海沿岸地域での大油田の開発、最近ではレアアースの埋蔵可能性が高いことでも注目を集めています。国全土にレアメタル、亜鉛、銅、金など多くの金属資源やエネルギー資源が存在する世界有数の資源大国と言っているでしょう。

東カザフスタン工科大学がある東カザフスタン州は国の東北端に位置し、ロシアと国境を接する鉱山地帯であるとともに大規模な亜鉛やチタンの精錬所、ウランの精製工場などが立地しています。1991年の独立以前は旧ソ連邦への資源供給基地とされてきました。

現在でも旧ソ連時代の前近代的な経営理念や技術による非効率な生産が続けられていくことや環境汚染も深刻です。自由経済のもとでの考え方や最新の資源技術が求められています。

同大学との連携を通じて教育・研究レベルの底上げと人材育成に協力することは、同国の資源産業の発展に寄与するとともに我が国の資源セキュリティへの貢献が期待されます。

また、生産現場や多数の有望鉱床地域など、秋田大学で資源学を専攻する学生や研究者にとって貴重な実習現場となることも期待されます。



族とともに移動する遊牧民。また、横綱白鵬に代表されるように今の日本の相撲界になくはならない存在。このようなイメージをモンゴルについて抱く方が多いのではないだろうか。

モンゴル共和国は日本の約4倍の国土面積にわずか280万人が住み、牧畜で生活する人々もまだ多く残っている、厳しくもたいへん豊かな自然が残っている国です。実は、モンゴルには、自然環境だけでなく鉱物・エネルギー資源が豊富に存在しています。

動力にして、モンゴル経済は大きく発展しつつありますが、それは環境の保全と資源開発が両立する形で進めることが重要だと昨年11月にエルベグドルジ大統領が東京大学で講演されたときに強く主張されています。秋田大学は、資源開発技術とその環境対策技術を提供することで、研究フェイルドの確保と人材育成を目指しています。

秋田大学とモンゴルとは、特に資源地質学の分野で過去数10年にわたり密接な関係にありましたが、2009年10月には首都ウランバートルに位置するモンゴル科学技術大学と大学の教員・学生の交流を促進しています。昨年10月にはインターネットを利用した遠隔会議システムを導入し、大学間での遠隔授業を行える体制をとっています。また、2010年7月には吉村学長一行がモンゴルを訪問し、モンゴル国立教育大学とイフザサグ総合大学と国際交流協定を結ぶなど、3つの大学との連携を深めています。



(安達 毅)

国際資源学教育研究センター長 水田教授に聞く。

資源分野における 秋田大学の強みとは

●日本国内で資源教育が出来るのは、数えるほどしかない。秋田大学は、地質調査、採鉱、選鉱という資源開発の一連の流れを学べる唯一の大学。前身の秋田鉱山専門学校時代から数えて、資源の研究に100年の歴史を持つ。技術は日本トップレベルです。

資源未開発国への支援の メリットは

●資源保有国の大半は、鉱山開発の技術を、自国で十



国際資源学
教育研究センター長 水田 敏夫
Mizuta Toshio
東京女子大学理学部地質学専攻修士課程修了。専門分野は、鉱床学・資源鉱物学。

分に持ち合わせていない。そのため、地下資源を生かすにできない。リサイクル技術がいくら発達したとしても、その技術だけで必要とする全ての資源を補うことは不可能です。やはり新たに発掘をしなければならぬ。資源を持たない日本が資源保有国との友好関係を図ることは、将来的な資源の安定供給につながる狙いがある。

また、日本国内の鉱山の大半は閉山してしまつたため、フィールドワークの場を失つていく。海外の生きた鉱山を研究者・学生のフィールドワークの場として活用したい。

留学生を受け入れるのは 何故か、そして彼らに何を 期待するのか

●資源開発分野の技術者だ

けでなく、技術者を養成する教員も不足している。彼らには、母国の資源開発におけるリーダーとなって欲しい。現在、ポツワナから来ている2人の留学生の学費や生活費は全て秋田大学の費用で賄っている。政府には、資源開発における人材養成の重要性を理解してもらい、国費で留学生を呼べるようにしたい。

センターの課題・展望は

●資源に関わる教育は、少ない人員ではカバーできない。国内の大学や関係学会に協力を要請し、コンソーシアムを形成できればと思う。そして秋田大学が長年培ってきたノウハウを世界の資源開発に役立たせ、国内、そして世界に秋田大学の存在を示したい。

ものづくり創造工学センター

「日本酒 BIJIN」

今回からものづくり創造工学センターで創造的なエンジニアの育成を目指し、支援している学生自主プロジェクトを順番に紹介していきます。第一弾は「日本酒 BIJIN」。プロジェクト代表の阿蘇裕樹君から報告させていただきます。学生達のアイデアあふれる活動を是非応援してください。

工学資源学部生命化学科3年の阿蘇裕樹です。日本酒 BIJIN プロジェク

トの代表をしています。私たちは、日本酒から化粧水をつくるプロジェクトに取り組んでいます。日本酒に含まれるアミノ酸などの栄養成分による保湿・美肌効果に着目し、それを化粧水として活かしてみようというプロジェクトです。

私たちのプロジェクトの始まりは、メンバーの2人が学部の勉強の一つとして日本酒化粧水を取り上げたことがきっかけでした。その後、学科長である伊藤先生から学生自主プロジェクトの話聞き、本格的

学生自主プロジェクトの紹介

センター長 神谷

修 Komiya Osamu



な「日本酒 BIJIN プロジェクト」として発展しました。プロジェクトメンバーは私を含め生命化学科の3年7人、環境応用化学科の3年1人、同学科の2年1人の合計9人からなります。

プロジェクトでは秋田県産の日本酒と水を使い、既製品に近い日本酒化粧水を作り、商品化することを目標に、化粧水の材料集めからスタートしました。まず県内の酒蔵をまわってお酒を提供してもらい、六郷の湧水を汲みに行きました。そして化粧水に適したお酒の量や種類を選定し、お酒のにおいが強いときはにおいを打ち消す成分をいれてみるなど、試行錯誤を繰り返しました。その結果、「化粧水づくりには純米酒が適している」など様々なこと

が分かってきましたが、においについては今も奮闘中です。これからの課題としてはにおいを改善し、パッケージとなるボトルを作ってみたいと考えています。プロジェクトが立ち上がったから、楽しかったことや苦労したことなど様々ありましたが、全て自分やメンバーのみんなにとって良い経験になっていると思います。3月初めにはプロジェクトの最終報告がありました。商品化目指して一杯頑張っていきたいと思



〒010-0976 秋田県秋田市八橋南一丁目3番10号
Tel 018-866-3455 http://www.eco-line.co.jp

「昨日は夢、今日は可能性、明日は現実に」 — 秋田から日本へ、世界に飛躍 —

エコラインは「節水」で秋田から日本、世界へ飛躍する省エネ企業の創造という夢を抱き、平成14年起業。秋田という日本の一地方から世界を覗く商材を獲得するため、夢の可能性に、現実にすべく歩んできました。そして節水装置「エコタッチ」ブランドの独自開発。節水業界に相応の地歩を占め、「節水と言えばエコライン、エコラインといえばエコタッチ」と認知されるまでに至りました。

— あなたのそばにある「蛇口」から「エコ」を —

エコラインは温室効果ガスの削減に「節水」の切り口からアプローチ。節水は経費削減をもたらす経済的効用のみならず、地球環境にやさしい社会的貢献をもたらします。



『エコタッチシリーズ』
特許取得、平成20年度省エネ大賞受賞

環境への負担を最小限に 「ライフサイクルデザイン」とは？

言うまでもなく、地球上に存在するエネルギー・鉱物資源は無限ではありません。私たちが使い続けている限り、いつかは無くなってしまうのです。ですから、電気をこまめに消したり、車を使わずに自転車通勤にしたりと、日常においても、少しでも環境に負担をかけないようにと意識しています。

「現在でも、エコを意識したりサイクリング活動が盛んです。しかし、それはあくまで事後行為。現在だけでなく、

将来を見通した場合、最初から廃棄物が出ない、あるいは出にくくするようなアプローチが必要なのです。」
こう話すのは、中村雅英教授（大学院工学資源学研究所 機械工学専攻）。

「どのような製品であつても、最後には廃棄、またはリサイクルされます。製品の一生を考慮し、全体としての環境負荷を、可能なかぎり低減する事を指すのがライフサイクルデザインです。言い換えれば、初めからリサイクルすることを前提としたものづくりなのです。」
例えば、「使う」段階の環境負荷が少なくなつたとしても、その機能をつけるこ

とによって「作る」段階の環境負荷が増え、全体での負荷が、それまでよりも大きくなつては意味がありません。
また製品の製造や配送、リサイクルに係るコストは少なければ少ないほど良いはず。環境への負荷、製造に係るコスト、その両面を配慮していかなくてはならないのです。

ライフサイクルデザインを推し進めていくには、企画・設計・製造・使用・回収、全ての段階をマネジメントする事が必要なのです。それには、電気・情報・機械といった工学系の知識ばかりでなく、資源系の知識や経営工学系の知識も必要とされるようです。

現在、秋田大学が進めている秋田県立大学との共同大学院設置。ここでは正に、このライフサイクルデザインを突き詰めていきます。将来のものづくりを担う人材。それが、ここから巣立っていくことを期待します。

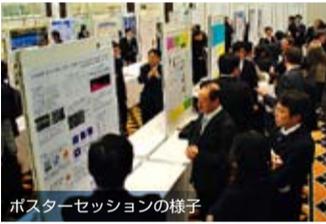
「資源・環境・ライフサイクルデザイン」への新たな展開 4団体による合同フォーラムを開催

秋田大学大学院工学資源学研究所は、4団体は、「資源・環境・ライフサイクルデザイン」への新たな展開」をテーマとする合同フォーラムを3月3日、秋田ビューホテルで開催。参加した企業関係者等150名は、秋田県における今後の産業創出や産学連携の在り方を探りました。

この他の主催団体は、秋田大学工学資源学部産学官連携推進協議会、秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、あきたアーバンメイン開発アカデミー。

開催にあたって西田眞秋田大学大学院工学資源学研究所長は、「秋田大学は、国際資源学教育研究センターを中心に資源保有国への技術支援活動等に取り組んでいる。また、秋田県立大学との共同大学院設置に向けて準備を進めているところ。資源と工学、この2つの分野で特色を強めると同時に、産学官の連携をより一層深めながら、秋田、そして日本の科学技術の発展等に寄与していきたい」と挨拶しました。

第1部では、産業技術総合研究所の三島望氏が「価値づくりのためのライフサイクル設計手法の提案」と題して講演。エコビジネスを事例に、製品のライフサイクル全体を見据え、ユーザ価値、環境負荷、コスト全てを最適化するための手法であるトータルパフォーマンス分析を提案しました。このほか、東京大学名誉教授



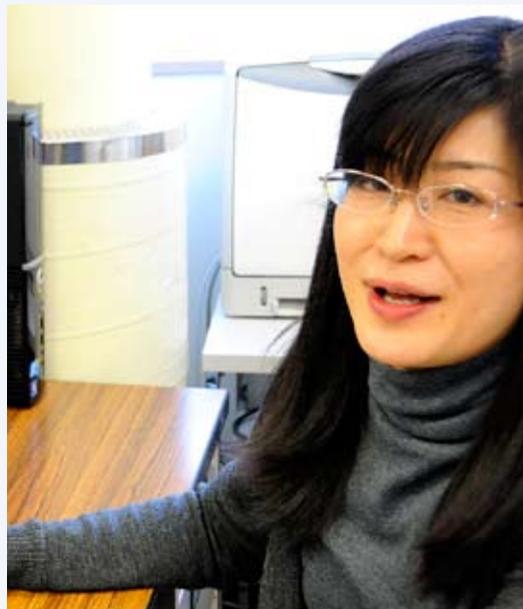
**「共同大学院
「共同ライフサイクルデザイン
工学専攻」(仮)**

●資源探掘からリサイクル廃棄までを体系的に学び、循環型社会の役割等について研究する2年間の修士課程。設置は2012年を予定しており、国立大学と県立大学による共同大学院設置は全国初。

研究室 から

安全なデジタル社会の実現へ

石沢 千佳子 助教 [shizawa chikako]



2つの異なる画像をパソコンの画面に交互に映し出す。ゆっくりと切り替えても2つの画像が交互に映し出されるだけだが、切り替え方を高速にすると、そこには別の画像が映し出される。

石沢千佳子助教の専門は画像情報通信工学。主な研究のテーマは、ネットワーク上に公開されている画像処理に関することだ。

石沢助教が進めているこの技術は、そこに存在しないはずの画像を映し出す事が可能だ。逆に考えれば、そこに見えていない画像のコピーが不可能とすることがあり、これがネットワーク上の不正コピー防止に役立つことが出来るという。

インターネットを中心としたデジタル技術の発達には、我々の暮らしの中に大きな利便性をもたらした。と同時にアナログ時代には想定し得なかった問題に直面している。

例えば、インターネットに公開されている音楽・写真などのコンテンツをコピーして、自己のホームページに取り込む。これは、紛れもない著作権の侵害行為。また、電

車にPCを忘れてしまつて大事な顧客情報を流出させてしまった等の

ニュースも良く聞く。

アナログからデジタルへと社会が移行し、扱う情報が増えて便利になつた一方で、その管理についても責任を問われることになつたのである。

石沢助教は、ここ秋田大学鉱山学部資源化学工学科(当時)を卒業。その後、民間のソフトウェア会社に就職したものの、デジタル技術を根本から学び直したいと思

大学に戻つた。だが、情報工学の研究を始めた当時、これほどまでにデジタル技術が発達するとは想像出来なかつたという。

石沢助教は、研究を進めていくうち、デジタル情報管理の負担を少しでも減らしたいと考え、現在、画像

処理技術だけでなく、情報漏洩の防止技術や、不正インストールソフトウエアの検出技術の研究も進めている。

「現代のデジタル社会では、本人が不正を行う気がなくても、思いがけない事により不正につながるケースがあります。情報を管理する側と使う側、どちらの負担も減らせるような技術を開発できれば嬉しいですね」

情報分野は、男性が扱うものというイメージがあるが、実際には、女性ならではの発想が求められる事も多い。

「女性は、細かいところも気になりますからね。その要望を少しでもデジタル管理に生かしたいと思つています」

宇宙へのロマン 教育文化学部天文台



最近、星を眺めたのはいつですか？
日本では約3年ぶりとなる「皆既月食」の観測会が昨年12月21日、秋田大学教育文化学部天文台でありました。当日はあいにくの曇り空でしたが、天文台には月食をひと目見ようと、小学生や市民の方など約40名が集まりました。

秋田大学教育文化学部天文台では2008年から毎月一回、市民を対象とした天文講演会と天体観測会を開催しています。一昨年の9月には解像度・結像性能とも極めて優れた東北でも有数の望遠鏡を導入しました。新望遠鏡には多くの方に親しんで、活用してもらえようという名称を小学生から公募。「ミルエル」と名付けました。

開催していません。一昨年の9月には解像度・結像性能とも極めて優れた東北でも有数の望遠鏡を導入しました。新望遠鏡には多くの方に親しんで、活用してもらえようという名称を小学生から公募。「ミルエル」と名付けました。イベントの開催に携わってきた教育文化学部の林信太郎教授は「星や月、宇宙はとても神秘的でおもしろい。それを多くの人に知ってもらいたい」と話します。「宇宙にはまだまだわからないことが多い。子ども達には宇宙への興味を持ち、ロマンを感じて欲しい。」その言葉通り天文イベントに参加した小学生は「自分の目ではよく見えないけど、望遠鏡だととっても近くに見えておもしろい」

「将来は月に行ってみたい」「天文台が宇宙への興味・関心につながっているようにです。親御さんの中には子どもを連れてきたのがきっかけで、天文に興味を抱き、天文ボランティアとして、イベントの運営に協力して下さっている方もいます。大学ではこういった天文ボランティアの方々を今後自主的に天文イベントを開催していけるよう、新たに「星空案内人資格認定講座」を開設しました。星空案内人とは星空や宇宙の楽しみ方を学校や科学館で教えたり、地域のボランティアとして活動するスタッフで、講座では天文に関する基礎知識からイベントの企画・運営方法について学びます。現在、地域で行われる天文イベントの数は限られていますが、星空案内人や天文ボランティアの養成により、天



文イベントの増加、地域の天文教育の普及につながることを期待されています。また毎月1回、天文イベントを開催してきたことで、リピーターもでき、大学と市民の距離は縮まってきているそうです。天文イベントで講師を務める秋田大学の毛利技術職員は「大学が持つ施設や道具を広く開放し、市民の方が自由に使える天文台にしていきたい。大学の天文台という事で敷居が高いと感じる方もいますが、市民の天文台、自分の望遠鏡だと思って利用してほしい」と話していました。

知っているましたか？秋田大学教育文化学部天文台。たまには星を眺めに大学へ足を運んでみてはいかがでしょう。

【教育文化学部天文台】
☎018-889-2655

研究室から

心技体—柔らの道を究める—

三戸 範之 准教授 Sannohe Noriyuki

教育文化学部 / 専門分野は柔道・武道方法学、スポーツ心理学

全日本柔道選抜体重別選手権大会1位、アジア競技大会柔道競技2位。柔道選手として輝かしい戦績を持つ三戸範之教育文化学部准教授。専門は「柔道・武道方法学」と「スポーツ心理学」。柔道の技や戦術の研究に加え、練習の構成や指導法、技能の発揮の仕方について心理面からもアプローチしている。

「誰かにやらされている」という考え方は強くなれない。練習の意味を理解し、強くなれると感じながら取り組む。そうすると選手はのびてきます」

ジュニア強化コーチも務める三戸准教授。昨年は選手の指導に対する功績が認められ、文部科学大臣より国際競技大会優秀者等として表彰された。世界を目指す選手を指導する傍ら、7年前から秋田の小中学生を対象とした「かもしか柔道クラブ」の指導にもあたっている。

三戸准教授が顧問を務める秋田大学柔道部。昨年、東北学生柔道団体競技で春秋連覇し、東北代表として出場した全日本インカレでも活躍した。大会本番、学生が思ってもよらない能力を発揮することも少なくないという。

時、学生は予想を超えた力を発揮するという。「学生のエネルギーはすごい。短期間でいろんな事を吸収できる。だから枠にはめちゃいけないと思います」

「いつか秋田から日本代表やオリンピック選手が生まれてほしい」道場で子どもたちと向き合いながら、自らの夢も育てている。



どう指導すれば学生の可能性をのびすのか。柔道強豪校がひしめき合う全国大会。三戸准教授は強い相手でも選手に「勝てない」とは言わない。学生とともに、相手を倒すことに集中して研究・分析し、先述を練り、稽古を重ねると、戦術がはまった

「痛み」に寄り添う

緩和ケアセンター

日本人男性の3人に1人、女性の2人に1人が、がんで亡くなると言われている。現在、がんの病気は、もはや他人事ではない。当然のことながら、がんの病気には痛みを伴う。そして、患者は自らを脅かすその痛みからの解放を強く願う。症状による身体的な痛みだけでなく、迫り来る死への恐怖や社会的苦痛。その患者が抱える全ての痛みに寄り添いながら、患者を支援する。それが「緩和ケア」である。

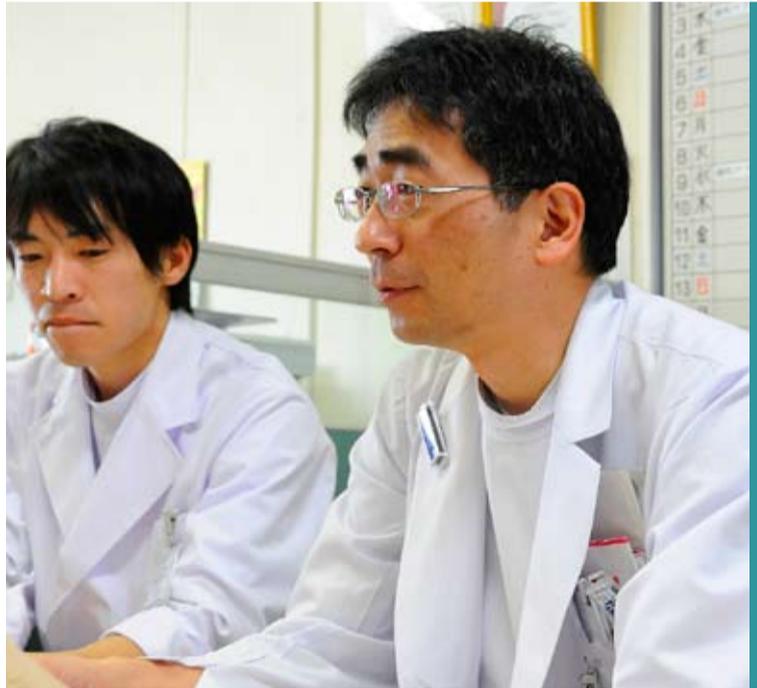


「もともと緩和ケアは、キリスト教のホスピスの思想から派生したものです。ホスピスは、終末期を迎える患者へ、残りの人生をより良く生きてもらうための支援のことですが、どんな患者であっても、人を人として見て接するこの思想は、そもそも医療人としてのベースとなるものです」と片寄喜久緩和ケアセンター長は話す。

秋田大学医学部附属病院は平成21年4月、院内に緩和ケアセンターを設置した。

片寄 喜久 講師 Katayose Yoshitsa

所属 緩和ケアセンター長、第二外科(乳腺・甲状腺外科)



がんの死亡率が、全国で最も高い秋田の支援体制を高めるためだ。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチームを組み、全人的なケアに当たる。時には、患者だけでなく患者を支える家族とも向き合う事もある。「緩和ケアは、患者と医療チームによる痛みに対する戦い」

片寄センター長は、緩和ケアをこう表現する。センターでは毎月、患者や市民を対象とする緩和ケアの勉強会を行っている。「痛みの治療では、患者さん自身が果たすべき役割があります。痛みを我慢することが美德であるとは思わずに、我々に痛みを伝えていただければ」

2007年6月に「がん

対策推進基本法」が施行。これにより、緩和ケアの実施が、国として推進されることとなった。

これまで日本で緩和ケアが浸透してこなかった最大の原因は、医療に関わる者たちへの教育・支援体制の不足と片寄センター長は指摘する。

「まず、緩和ケアについて理解を深めなくてはならないのは、他ならぬ医療者自身。我々は、宗教的な観点からではなく医療の観点から、緩和ケアを発展させていかななくてはなりません」

そう話す片寄センター長の隣には、学生が1人座っている。

「緩和ケアの教育は若い頃から、早めの対応が必要。それは治療と同じです」

【医学部の主な沿革】

- 昭和20年(1945) 4月 秋田県立女子医学専門学校設置
- 昭和22年(1947)11月 秋田県立病院設置
- 昭和29年(1954) 7月 秋田県立中央病院と改称
- 昭和45年(1970) 4月 **秋田大学に医学部設置**
- 昭和46年(1971) 4月 秋田県立中央病院を国に移管、医学部附属病院発足
- 昭和47年(1972) 4月 秋田大学医学部附属看護学校設置【平成4年(1992)3月廃止】
- 昭和51年(1976) 4月 大学院(医学系研究科)設置
- 平成21年(2009) 4月 医学系研究科を大学院部局化／大学院医学系研究科に保健学専攻(博士後期課程)を設置
- // 10月 附属病院新病棟にて診療開始



秋田大学医学部創立40周年記念式典



秋田大学医学部の創立40周年を記念して11月28日、秋田市の秋田ビューホテルで記念式典を開催しました。大学や医療関係者約500名が出席し、40年の節目を祝うとともに、更なる発展を誓い合いました。

秋田大学は1970年4月、戦後初の国立大学医学部として創立。翌年には当時の秋田県立中央病院が国に移管されて今の医学部附属病院となり、現在にいたります。式典に先立ち、秋田市出

40周年の節目

改めて地域医療への貢献を誓う

身・脚本家の内館牧子氏が「秋田大学医学部に望むもの」と題して講演。内館氏は入院した時に、医師や看護師の言葉で心救われ希望を持つことができたと自身の体験を語り「患者に希望を持たせることは医療関係者の大事な役割。秋田の医療に、秋田大学が果たす役割は大きい。より優れたプロの集団であって欲しい」と秋田大学医学部への期待を話しました。

式典では、本橋豊医学系研究科長・医学部長が「地方国立大学として地域に根ざした医学教育の推進とともに、世界に情報を発信できるグローバルな医学部としての発展を目指していきたい」と式辞。続いて荏原順一医学部附属病院院長が「今まで以上に医学部および附属病院が一体となって、先進・高度医療を推進しながら、秋田県における地域医療への貢献を果たしていきたい」と挨拶しました。

大学と地域をつなげる

2つの分校が果たす役割

人里離れた山奥で、村の子どもたちが集う小さな学び舎。分校と聞くと、そんな情景が浮かぶのではないだろうか。

秋田大学は、連携協定を締結している横手市と北秋田市に「秋田大学横手分校」と「秋田大学北秋田分校」を開設しています。

「秋田県は、広い県土を持っていても関わらず、高等教育機関が秋田市に集中している。大学が持つ教

育研究資源を秋田に住む人たち全てに提供したい」吉村昇学長のこの言葉が、2つの分校開設に繋がりました。

秋田大学の分校は、普通の分校とは異なることがあります。

対象を秋田県全域に目を向けたこと。地元銀行が分校の取組みに参画していること。もう一つは、教室を持たないという事です。「横手分校の場合、横手



2年目となる今年は、同ゼミの後輩たちが、横手分校事業に参画する北都銀行のマーケティング知識を借りながら全国展開の可能性を探っている

市役所内に分校担当職員が常駐し、そこで横手市職員や市民・企業の意見を受けます。そして、大学で応えられるかどうかのコーディネートを行い、必要があれば、大学教員を派遣します。分校は、地域からのニーズを大学へと繋ぐ役割を果たしているのです」と大学の自治体連携業務を担当する藤井社会貢献推進室長。

横手市は、平成21年2月の秋田大学との協定締結後ほどなく、市民にアンケートを実施。「大学に期待すること」について市民に意見を求めたところ、大きな反響があったそうです。同年8月に開設した横手分校は、このアンケートをもとに動き始めました。

7月に秋田大学で開催したJAXA川口淳一郎先生の「小惑星探査機はやぶさ」の講演会も秋田大学から横手分校に配信しました。分校の事業はそれだけではありません。地元の大学として、地域が抱える課題へも向き合います。年間5000トンにも及ぶ間引きスイカの活用や横手市増田町の内蔵(うちくら)を活用した観光まちづくりの提案。秋田大学の複数の教員をメンバーとするプロジェクトを立ち上げ、その課題解決のために動き始めています。

「若い学生さんと会話するだけで、なんだか嬉しくなる」と地元農家の人は笑顔を見せます。フィールドワークの場合、学生が地域から学び、そして地域の人々に元気を与えることにも繋がっているのです。

平成22年11月に開設したばかりの北秋田分校の活動も、始まっています。「地元資源で、地元企業による商品開発を」という想い。北秋田市の地域資源である珪藻土を活用して地元を活性化できないか、秋田大学教員をメンバーに含む検討会が発足しています。秋田の産業を育てることは、長期的に見れば、若者が秋田に残ることに繋がることです。



北秋田市の小学生を対象にした科学教室を開催(平成22年10月22・23日)



左から、焼成品、乾燥品、融剤焼成品

【珪藻土】

植物プランクトンの死骸が積み重なり、長い年月をかけて岩石化した物質。北秋田市内には珪藻土の鉱床があり、その埋蔵量は700万トンと推定されている。吸湿性や断熱性に優れていることから珪藻土は主に、ビールのろ過や断熱材に利用されている



北秋田市近隣の小学校教諭を対象とする英語音声研修を開催(平成22年12月4日・11日)



「マタギ」の文化や生活を紹介する企画展を秋田大学で開催(平成22年11月8日～19日)

学生寮 西谷地寮 手形寮

男子寮

秋田大学手形キャンパスから徒歩10分の場所。そこにあった工学資源学部の男子寮「北光寮」が、平成22年3月をもって廃寮となりました。45年という長い歴史の幕を下ろしたその北光寮の役割を、新しく完成した学生寮が引き継いでいます。

寮の名称は「秋田大学西谷地寮」。北光寮の隣に同年4月に完成したワンルームマンションタイプの建物です。建築のコンセプト「ポストンバックひとつで引越せし！」の言葉通り、130室ある部屋にはそれぞれ、ミニキッチン、ユニットバス、トイレ、学習机等が備わっており、直ぐにでも暮らし始めることが出来ます。

学生の話によると、入寮したのは親からの薦めもあったからだと言います。新生活で不安な子どものことを思えば、仲間が近くにいる寮に入って欲しいというのが親心。また、アパートを探す手間や、家賃のことを考えれば、経済的な負担も減ります。管理人も常駐しているのでセキュリティの面でも安心出来ます。

現在、入寮しているのは、約100名。この西谷地寮は、北光寮と同じ男子寮ですが、全学部生・大学院生、そして留学生も受け入れています。

「試験前になると、みんな集まって勉強会。でもついつい勉強以外で、話し込んでしまうことも…」

工学資源学部の同窓会誌に、かつての北光寮での生活が紹介されています。

「入寮時には、何故か学ランの着用品が義務付けられた。その日から、先輩たちに囲まれて、挨拶や寮歌の厳しいレクチャーが始まった。今でも寮生活の夢を見る」

近代的な西谷地寮とは、とても似つきません。ですが、北光寮OBは皆、口をそろえて「良い思い出、寮生活は一生忘れない」と話します。

寮生活には、アパート暮らしでは得られないものがあります。大学キャンパスが学問を学ぶ場としたら、寮は卒業後の社会生活を垣間見る場と言えます。

北光寮と比べ、西谷地寮はプライバシーに配慮した作りになっています。かつてほどの厳しさも、ここにはないかもしれません。ですが、部屋を開ければ、すぐそこに沢山の仲間がいる。時代は変わっても、それだけは変わりません。



【西谷地寮】 ●対象者／全学男子
●入寮定員／130名 ●寄附料／月額2万円 ●居室は個室で机、椅子、ベッド、クローゼット、トイレ、浴室、ミニキッチン（IH）、冷蔵庫、エアコンを備え、共同設備として偶数階に洗濯室がある。

女子寮

秋田大学手形寮は女子寮で、手形キャンパスから徒歩5分の場所にあります。定員40名の個室は現在ほぼ満室。バス・トイレは共同となっています。

「最初は古くて驚きました。が、住んでいるうちに慣れました」そう話すのは昨年4月に入居した工学資源学部1年の一戸涼華さん。横手市出身の一戸さんは両親からの薦めもあり、寮への入居を決めたそうです。

「不便に思うこともありませんが、大学までの近さと安さは大きな魅力です。アルバイト代をほぼ自分の好きなことに使えますから」。

一ヶ月の家賃は4300円。光熱費を払っても1万円程度と、アパート等での一人暮らしに比べ、経済的な負担は圧倒的に軽いですが、手形寮には門限や規則が多いイメージがあります。一戸さん曰く、結構自由で

入居を決めたそうです。

「アパートも良いなあと思えますが、たぶん4年間引越さないと思います。住めば都です。決して広いとは言えない畳約6畳分の個室スペースには備え付けのベッドと机。そして一戸さんの好きなものが所狭しと並び、なんとも居心地のいい部屋でした。」

「アパートも良いなあと思えますが、たぶん4年間引越さないと思います。住めば都です。決して広いとは言えない畳約6畳分の個室スペースには備え付けのベッドと机。そして一戸さんの好きなものが所狭しと並び、なんとも居心地のいい部屋でした。」

Column 文章力up



何らかの職に就くことを「就職」といいます。本来ならまず何をやりたいかを考え、次にそのことができる場所(企業等)を探します。実態は逆ですね。

もう二十年も前ですが、弟が「勤務地は東京で出版部門」という条件である企業に内定をもらいました。しかし、実際に言い渡された配属通知は「札幌で営業」。入社してから三ヶ月ほどは「辞めてやる」と息巻いていました。いつしか一人前の営業マンになっていました。わからないうちです。

さて、今回はエントリーシートに必ずある「当社を志望する理由をお書き下さい」という質問について考えてみましょう。

なぜ入社したいのか。なぜその仕事をしてみたい

のか。基本は素直に本音を書くことです。

社は、社訓を誉めたいので「御社の社訓に共感しました」などと書かれたエントリーシートを何度も見かけました。HPをちらっと見て書いたのがわかりました。

「御社」という表現にまず、距離感を感じてしまいます。秋田大学を「貴学」と呼ぶようなもので、素直に「秋田大学」と書けばいいのです。エントリーシートを読み直してみると「御社」のオンパレードになっている人もいますね。書けば書くほど、間柄が遠くなってしまう気がします。

「社風が自分にあっている」なんていう記述のものもありますね。そもそも社風なんていうものは勤めてからなんとなくわかってくるもの。企業HPに記載されている「社風」を鵜呑みにしてはいけません。

OB訪問や企業説明会の経験を通じて会社の雰囲気の良い書き、志望動機にしている人もいます。企業説明会には、社内

でも好感度の良い人を派遣しています。感じが悪かったら、誰も入社を希望しませんよ。だから雰囲気は良くても当然なのです。

でも、そんな「先輩」たちには好感を持った、思った通り「10年後には先輩のように、自信を持って働いていたい」などと書くことはOKです。どこに「自信を持って」の姿勢を感じたか」を書き加えることは忘れないで下さい。

企業に対する「印象」は、HPや説明会だけではありません。例えばその会社の商品を使ったり、サービスに触れたりした機会があるでしょう。その時に感じたことを書いてみてはどうでしょうか。新鮮な観察力が盛り込めれば、企業側にとっても「発見のあるエントリーシート」になります。

書く前にもう一度、自分がなんの「プロ」になりたいのかをよく考えてみるのが大切です。

秋田大学企画広報課長
(元朝日新聞記者)
高橋 康弘

秋田大学生協は 大学生を応援します

今すぐアクセス!
秋田大学生協 検索
TEL:0120-327-141

アパート下宿紹介・新生活用品・パソコン・インターネット・自動車学校・教科書教材等

秋田大学の学生生活を日常的にサポートするのが大学生協です <http://www.akita.u-coop.or.jp/>



大学生協はこんなこともやっています

新入生の友達の輪を広げる企画 サークル紹介するステージショー オープンキャンパスの協力 秋にはスポーツ大会

■ 教育研究プログラム等採択状況 (平成22年度10月14日～平成23年1月6日採択分)

制度名	プロジェクト名	事業期間(年度)	交付金額等(単位:千円)	所属・事業代表者
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最適展開支援事業(A-STEP【シーズ顕在化タイプ】)	PZTセンサーを用いた 新生児心雑音診断モニターの開発	22年度～23年度	1,081	大学院医学系研究科 教授 尾野 恭一
財団法人関科学技術振興記念財団 平成22年度(第17回)研究・出版助成	ヘレニズム・ローマ哲学における 運命と自由の問題	22年度	22年度交付決定額 700	教育文化学部 近藤 智彦 講師
大学教育推進プログラム	高大接続教育の実践的プロジェクト	22年度～24年度	22年度 15,762	小川 信明 教育推進主管
大学生の就業力育成支援事業	就業力の育成に重点を置いた大学教育改革	22年度～26年度	22年度 19,662	教育文化学部 中村 裕 教授

■ 平成22年度科学研究費補助金交付決定一覧 (平成22年10月14日～平成23年1月6日採択分)

研究種目	研究代表者	交付金額(単位:千円)			研究課題名
		直接経費	間接経費	計	
基盤研究(C) 一般	医学部 助教 永澤 博幸	1,000	300	1,300	収束超音波を用いた 軟部肉腫の治療について
若手研究(B)	大学院医学系研究科 助教 大場 貴喜	600	180	780	心肥大形成メカニズムにおける 新規カルシウム流入経路の解明
若手研究(B)	医学部 助教 津田 昌明	1,100	330	1,430	皮膚扁平上皮癌におけるPI3KYの 分子制御:臨床展開への模索に向けて
若手研究(B)	医学部 講師 越前屋 勝	1,000	300	1,300	塩化揮発と湿式処理を利用した 廃基板等レアメタルの高効率・ 低エネルギー回収プロセスの開発

■ 人事異動情報 (平成22年10月2日～平成23年1月1日)

発令年月日	新配置	旧配置	氏名
採用・昇任			
11月1日	大学院 工学資源学研究所 教授	大学院 工学資源学研究所 准教授	山口 伸次
11月1日	大学院 工学資源学研究所 教授	大学院 工学資源学研究所 准教授	久保田 広志

※掲載対象は、部局長、教授以上

ニュース&トピックス

News & Topics



横手市で「メディカル・サイエンスカフェ」を開催
秋田大学医学系研究科の研究者が市民と医学のテーマで語り合う「メディカル・サイエンスカフェ」を11月24日、横手市内で開催しました。同イベントはこれまで秋田市内で開催してきましたが、秋田市外での開催は今回が初めて。

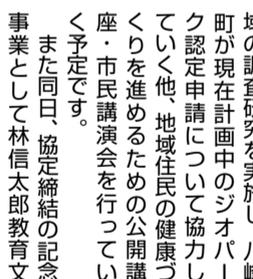
当日は、長谷川仁志寄附講座教授が「動脈硬化発症のメカニズムと予防・治療のポイント」をテーマに講演しました。

横手市で「メディカル・サイエンスカフェ」を開催
秋田大学医学系研究科の研究者が市民と医学のテーマで語り合う「メディカル・サイエンスカフェ」を11月24日、横手市内で開催しました。同イベントはこれまで秋田市内で開催してきましたが、秋田市外での開催は今回が初めて。

大学で働く技術系職員の仕事を知らせてもらうべく、秋田拠点センターアルヴェで「総合技術部テクノフェスタ2010」を開催しました。日頃、大学の技術系職員は教員や学生の教育研究活動のサポートを行っており、大学にとっては欠かせない存在。フェスタでは、ペーパーウェイト製作やパーチャル化石発掘など実際に体験できるコーナーを多く設けた他、技術実演も行い、参加した多くの家族連れは、その高い技術力に興味を示していました。



秋田大学総合技術部テクノフェスタ2010
大学で働く技術系職員の仕事を知らせてもらうべく、秋田拠点センターアルヴェで「総合技術部テクノフェスタ2010」を開催しました。日頃、大学の技術系職員は教員や学生の教育研究活動のサポートを行っており、大学にとっては欠かせない存在。フェスタでは、ペーパーウェイト製作やパーチャル化石発掘など実際に体験できるコーナーを多く設けた他、技術実演も行い、参加した多くの家族連れは、その高い技術力に興味を示していました。



平成22年度秋田大学職員表彰式
「秋田大学職員表彰式」が12月7日行われ、関係者列席のもと、吉村学長から被表彰者に賞状及び記念品が授与されました。

八峰町と連携協定を締結
秋田大学は、東北西部に位置する八峰町と連携協定を締結し、12月10日、八峰町で締結式を行いました。締結式では、吉村昇学長と加藤和夫八峰町長が協定書にサインを取り交わし、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを誓い合いました。今後は、本学教員が白山山地及びその沿岸地域の調査研究を実施し、八峰町が現在計画中のジオパーク認定申請について協力していく他、地域住民の健康づくりを進めるための公開講座・市民講演会を行っていく予定です。

平成22年度秋田大学職員表彰式
「秋田大学職員表彰式」が12月7日行われ、関係者列席のもと、吉村学長から被表彰者に賞状及び記念品が授与されました。

吉村昇学長「第60回河北文化賞」受賞
東北地方における学術、文化、教育に功勞のあった者に贈られる「第60回(2010年度)河北文化賞」を吉村昇学長が受賞しました。鉱山研究の技術支援による資源保有国との交流推進。その舵取りを担う学長としての功績が認められました。

「秋田大学職員表彰式」が12月7日行われ、関係者列席のもと、吉村学長から被表彰者に賞状及び記念品が授与されました。



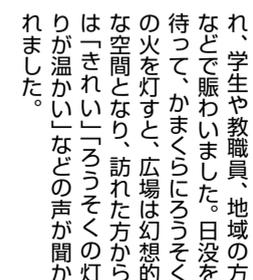
平成22年度子ども食農体験教室
秋田大学は、地域の子どもを対象とする「子ども食農体験教室」を毎年開催しています。自然に触れ合う機会が少なく、野菜の栽培から収穫を実際に体験し、その素材を使った調理法を学んでもらおうと、教育文化学部の体験学習運営グループが5年前から始めました。

平成22年度子ども食農体験教室
秋田大学は、地域の子どもを対象とする「子ども食農体験教室」を毎年開催しています。自然に触れ合う機会が少なく、野菜の栽培から収穫を実際に体験し、その素材を使った調理法を学んでもらおうと、教育文化学部の体験学習運営グループが5年前から始めました。

吉村昇学長「第60回河北文化賞」受賞
東北地方における学術、文化、教育に功勞のあった者に贈られる「第60回(2010年度)河北文化賞」を吉村昇学長が受賞しました。鉱山研究の技術支援による資源保有国との交流推進。その舵取りを担う学長としての功績が認められました。

今回の受賞は、フィデアホールディングス(株)町田善取取締役会議長と(株)北都銀行齊藤永吉取締役頭取から「資源の安定確保へ 秋田大学の挑戦」として推薦いただきました。

化学部教授が講演し、会場は地元住民など約1200人でいっぱいになりました。



秋田大学冬のイベント第2弾! 「横手がまくら」 in 秋田大学」開催
恒例のイルミネーションに続き、冬のイベント第2弾として「横手がまくら」が秋田大学を初開催しました。秋田大学の分校がある横手市を身近に感じてもらおうことを目的に、かまくらの本場・横手市からかまくら職人を招き、大学生と一緒に大かまくらを一基製作。さらにその周りにはパケツで作ったミニかまくらを80個並べ、ろうそくの火を灯しました。



恒例のイルミネーションに続き、冬のイベント第2弾として「横手がまくら」が秋田大学を初開催しました。秋田大学の分校がある横手市を身近に感じてもらおうことを目的に、かまくらの本場・横手市からかまくら職人を招き、大学生と一緒に大かまくらを一基製作。さらにその周りにはパケツで作ったミニかまくらを80個並べ、ろうそくの火を灯しました。

最終日となった1月6日には、修了式を開催。参加した子どもたち一人一人に吉村学長からオリジナルの修了証書が手渡され、子どもたちからは「自分たちで作った野菜をみんなで食べたのでおいしかった」「野菜を育てることや料理の楽しさを実感した」などの感想が聞かれました。

恒例のイルミネーションに続き、冬のイベント第2弾として「横手がまくら」が秋田大学を初開催しました。秋田大学の分校がある横手市を身近に感じてもらおうことを目的に、かまくらの本場・横手市からかまくら職人を招き、大学生と一緒に大かまくらを一基製作。さらにその周りにはパケツで作ったミニかまくらを80個並べ、ろうそくの火を灯しました。

鉱山学部拡充委員会を引き継いだ鉱山学部将来計画委員会(以下、学将委と略)は、学科新設や博士課程設置等を含む学部の将来像を議論していった過程で、他大学の博士課程設置状況から文部省の方針「学部の改組・再編を前提にしている」がわかり、議論の中心は1985(昭和60)年から学部改組・再編に移りました。学将委の構成は学部長(委員長)と各学科等からの代表委員。

今回は鉱山学部の改組・再編が、他大学の工学系学部と比べ長時間を費やした主な要因を簡単に紹介しましょう。

新制大学発足以来の大きな出来事、教官一人一人にも係わる問題であり、学将委での審議内容はその都度学科等で議論し、その結果を学将委で一致があるまで何度か議論する慎重な方針で臨みました。教授会でも報告・審議されました。それにも係わらず、教授会の席上で学将委の見解とは異なった発言があり、後日、委員長が「本委員会での審議事項や内容は所属学科教官に逐次お知らせし、学部将来計画の動向を周知されたい」と各委員に要請する一幕もありました。

全国唯一の鉱山学部にとつて、他大学工学部の改組・再編が参考にならないこともありました。学将委は博士課程設立には総合大学院方式が有利と考え、鉱山学部を鉱山系と工学系の二

学部に分離する案を検討し、文部省もこの分離改組に興味を持った時期もありました。しかし、文部省が新学部設立に難色を示し、分離案は消え、学部名称を議論した時期も有りました。文部省の意見はある時は信州大学繊維学部のように鉱山学部の名称を残すべきと述べたかと思うと、別の機会に

関連学科と研究施設の教官が新学科案や大講座案を長時間にわたり練りました。しかし、文部省見解「新施設誕生間もない」により、この案は消滅。

改組・再編案の検討時期は、学生臨時増募を行っていた時期と重なっており、それに伴う教官定員増を国に返さず、「情報系学科」新設と

長時間を要した原因はその他にもありますが、89年7月上旬に学将委で決定、教授会で承認した改組・再編案を盛り込んだ概算要求書を秋田大学は文部省に提出しました。

その概要は、採鉱学科・鉱山地質学・冶金学学科の1部・資源化学工学部の半分を資源・素材工学部に、冶金学部の大半・資源化学工学部の半分・金属材料学・燃料化学を物質工学部に、機械工学・生産機械工学を機械工学部に、電気工学と電子工学を電気電子工学部に、土木工学部を建設工学部にそれぞれ改組・再編。それからの振替えと純増を加えて、情報工学部の新設。

これで改組・再編は一気に進むと思いましたが、文部省からAグループ(資源・素材工学部、物質工学部、情報工学部)、Bグループ(機械工学部、電子電気工学部、建設工学部)に分けた分割改組の打診が7月中旬にあり、Bグループの改組は純増を伴わないので助教授から教授への振替えも可能という文部省の誘い水で、分割改組を認め、90年4月にAグループ、91年4月にBグループの新学科が誕生しました。しかし、Bグループの改組では建設工学部が土木環境工学部に名称が変更された程度で、振替えは認められませんでした。

< 連載 >

秋田鉱山専門学校

まもなく

創立100周年

No. 21

名誉教授、学芸員(鉱業博物館元館長)、北光会元事務局長 **丸山 孝彦**



情報工学科棟(5号館)全景。同科は改組・再編に伴い90年4月に誕生したが、建物は93年6月に落成。撮影:千田恵吾学芸員・技術専門職員。

鉱山学部の名称は古くさいとアドバイス。結局、鉱山学部を継続することになった時点で、文部省は「取り敢えずですね」と念を押したのです。

結びつける方向で議論が進みました。しかし、6学科から10学科が増えた時代とは違いバブル景気崩壊後のこと、文部省はなかなか新学科新設を認めません。文部省の考え「まだ情報系学科が無い工学部があり、順序としてはこちらが優先される」もありました。

学部内で改組・再編議論に

(以下次号に続く)

◆◆著書紹介◆◆

役割体験学習論に基づく法教育 裁判員裁判を体感する授業

教育文化学部 教授 井門 正美 (著)



多くの人が選ばれる可能性がある裁判員制度が2009年から始まった。誰も、司法に対する関心や理解が求められる。法的知識だけでなく、法的な実践力が必要とされるはず。この本の著者である教育文化学部の井門正美教授はそう考えた。「知識と豊富な体験が一体化してはじめて使い物になる」かねてから、その持論を持ち続けてきた著者は、授業にシミュレーション、ロールプレイング、ゲーム等の体験的な活動を取り入れた「ゲーミング・シミュレーション型授業」という手法を開発した。対話的で相互交流的な授業から学生の社会実践力育成を目指したその活動は、文部科学省の「特色GP(H18~20)」に採択された他、日本シミュレーション&ゲーミング学会賞を受賞している。本書は、著者が実際の授業で取り組んだ実践的記録である。「裁判員裁判」を題材に学生が司法制度や裁判員裁判等の理解を深めていく過程が描かれている。本書から、裁判員時代の市民に求められる法的実践力を読み取って欲しい。DVD、著者が語る役割体験学習論に基づく「法教育」の付録が付く。全国の書店で発売中。



GOYO

世界が認めるクオリティー




あらたなチカラ この地から

株式会社五洋電子は、「ハイテクノロジーで未来を拓く」をモットーに通信、エレクトロニクス分野において、この秋田の地で着実な実績を積み重ねてきました。「人をつなぐ」、「世界をつなぐ」、「未来をつなぐ」をコンセプトに自主開発したハンズフリー製品「FOMA接続アダプタ」は、そのアイデアと機能を実現する技術が認められ、アウディ社、メルセデス・ベンツ社等で採用され、車内での多種多様化したユーザーの通信を支えています。

当社は、これからも確かな実績をバックボーンに、開発から量産まで首尾一環した技術力で、高性能・高品質で安全・安心・環境にも配慮したサービスを提供していきます。

株式会社 五洋電子

秋田県湯上市天王字鶴沼台43-224

イベント&講座・講習会

〈催し物〉……………

Form「かたち」と「数理」の間で 石井宏一作品展

秋田大学教育文化学部美術教育講座の石井宏一准教授の作品展開催。
●3月14日(月)～25日(金)10:30～17:00
●秋田大学インフォメーションセンター
☎018-889-3019

秋田大学演劇サークルきたのかい 「2010年度卒業公演」

●3月18日(金)18:00開演/19日(土)14:00開演、18:00開演(2回講演)「サンタクロースが歌った」作・成井豊(劇団キャラメルボックス所属)、演出・櫻井広子
●秋田市文化会館小ホール
●入館料/前売券500円、当日券800円。
☎080-6506-8739

秋大憩いのコンサート

【第6回】●3月19日(土)14:00～
「管楽アンサンブルの魅力～
フルート4重奏&トロンボーン4重奏」
【第7回】●4月23日(土)14:00～
「春爛漫～ソプラノの調べ」
(滝廉太郎 花、ドリーブ「ラクメ」より
花の二重唱 ほか)
【第8回】●5月28日(土)14:00～
「サロンの気分で～珠玉のピアノ小品」
(ショパン ノクターン嬰へ長調
作品15-2/グリーグ 君を愛す ほか)
●秋田大学インフォメーションセンター
●参加無料。☎018-889-2647
※詳細はHPをご確認下さい。

平成22年度秋田大学卒業式

●3月23日(水)10:30～ ●秋田県民会館
☎018-889-2207

がんの痛みの治療教室

がんの痛みとは? 痛いときはどうすればいいの? など、秋田大学医学部附属病院緩和ケアセンター主催で、がんの痛みについての勉強会を開催する。
●3月24日(木)14:00～
●秋田大学医学部附属病院外来ホール
●参加無料。☎018-834-1111

第13回秋田肝臓大学

肝疾患の基本的な事項や最近の話題を提供。【講演1】「自己免疫性肝炎と原発性胆汁性肝硬変」秋田大学消化器内科 大嶋重敏 【講演2】「肝硬変とは」秋田大学消化器内科 山田育弘。
●3月26日(土)10:00～(1時間程度)
●秋田大学医学部医学系研究棟 4階 6講義室
●申込不要、参加無料。☎018-884-6297

第7回子どもものづくり教室

もの作りを通して、科学への興味・関心を引き出す「子どもものづくり教室」を開催。第7回のテーマは「傘ラジオ」の製作。
●3月26日(土)9:00～12:00
●ものづくり創造工学センター創造組立作業室
●申込必要(先着20名)、参加無料。
☎018-889-2655

公開シンポジウム 「感染・免疫アレルギーとの ふれあいのつどい」

●3月27日(日)13:00～16:00
●秋田キャッスルホテル ☎018-834-1111

天文台のイベント

星空や宇宙の楽しみ方を教えてくれる「星空案内人®(星のソムリエ®)の資格認定講座」、「市民のための夜間天体観望会」を秋田大学手形キャンパスで、第1土曜日に毎月開催。
☎018-889-2655

平成23年度秋田大学入学式

●4月5日(火)10:30～ ●秋田県民会館
☎018-889-2207

〈講座・講習会〉……………

第5回市民開放講座 「鉄の腐食防食の形態」

金児紘征氏(秋田大学客員教授)が鉄の腐食防食の形態観察結果、またその成因について解説する。
●3月19日(土)13:30～15:30
●秋田大学大学院工学資源学研究所
附属鉱業博物館講堂
●申込不要、受講料無料。☎018-889-2461

〈その他〉……………

サイエンスボランティア募集

平成23年度サイエンスボランティアを募集します。募集要項は以下のとおり。
●活動内容/見学者への案内と説明、館内環境整備等の鉱業博物館の事業への援助活動
●活動期間/1年間
●募集対象/高校生以上
●募集期間/2月1日(火)～3月31日(木)
<土日祝日を除く9:00～16:00>
●申込先/秋田大学大学院工学資源学研究所
附属鉱業博物館事務室
☎018-889-2461
●w3admin@kuroko.mus.akita-u.ac.jp
※今年度登録している方も、毎年度の更新が必要ですので、ご注意ください。

緩和ケア外来

緩和ケアとは病気に伴って起こる様々なつらさ(体のつらさ、心のつらさ、生活のつらさなど)を和らげるためのケアです。受診を希望される方は主治医・かかりつけ医・相談支援センターにご相談ください。
●毎週水曜日・10:00～12:00
●緩和ケア外来(乳腺・内分泌外来)
●予約必要。☎018-884-6283

秋田大学インフォメーションセンター

AKITA UNIVERSITY INFORMATION CENTER



秋田大学インフォメーションセンターは、秋田大学を知ってもらうと共に、地域のみならずと交流の場として、平成22年4月に開設しました。センターでは秋田大学の教育・研究の取組みや、秋田大学出身の著名な人物、業績等をパネルや映像で紹介しています。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

- 開館時間/10:30～17:00(平日のみ)
- 入館無料 ●秋田大学正門入ってすぐ ☎TEL:018-889-2931
- http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info_c/index.html

【常設展】

成田為三



秋田師範学校(教育文化学部の前身)出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。

南木佳士



秋田大学医学部の第二期生で、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。代表作には第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」や「医学生」等があります。

【企画展】



サークル活動、学生の研究成果発表、演奏会、県内の地域文化を紹介。オープンスペースを活用して、学生や教職員による企画展を開催しています。4月には写真や関連資料から秋田大学の歴史を辿る企画を予定しています。

編集後記

「資源」は常に世界を揺さぶります。そして日本は、資源のない国。不幸な歴史の背景にも、資源の問題がつきまとっていました。今回のアプリルでは「資源外交」を特集しました。秋田大学の前身は秋田鉱山専門学校です。そして、創立からちょうど100周年を迎えています。そんなタイミングで、いわば途中経過の報告です。地方の大学でなぜ、外交なのでしょいか。1世紀に及ぶ秋田大学の蓄積。特に「ひと」を育ててきたという財産が、資源を持ちながら「ひと」を有しない国々から必要な存在となっているからです。ボツワナ、モンゴル、カザフスタン……と、フィールドは広がっています。執筆してくれた国際資源学教育研究センターのメンバーの原稿から、その一端をくみ取っていただけたら幸いです。もともと、世界を飛び回るメンバーたち。原稿には集まりませんでした。「鉱山学部」の歩みを丹念に綴った鉱業博物館元館長の丸山孝彦・名誉教授の連載にもご注目下さい。歴史と今、そして未来へ。「資源」に向き合う秋田大学の姿を感じていただけることと思います。今回の表紙は医学部医学科3年の植木春香さんです。厳寒期の撮影、ありがとうございます。(佳)